

2022年度 講義要綱

科 目	コミュニケーション I	必修 2単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ) 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようになる。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の手法 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。 			
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 豊岡短大オリエンテーション 3 学校生活とクラス活動(入学から卒業まで) 4 就職を見通して 自己分析(1) 5 グループコミュニケーション(1) 6 産学連携 7 グループコミュニケーション(2) 8 グループコミュニケーション(3) 9 グループコミュニケーション(4) 10 グループコミュニケーション(5) 11 就職を見通して 自己分析(2) 12 産学連携 13 グループコミュニケーション(6) 14 グループコミュニケーション(7) 15 振り返り・夏季休暇・後期の学校生活に向けて 16 クラスオリエンテーション 17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子 18 コミュニケーションプログラム(1)鑑水 19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 20 就職とコミュニケーション(1) 21 産学連携 22 23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代 24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 25 コミュニケーションプログラム(2)鑑水 26 グループコミュニケーション 27 産学連携 28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美 29 就職とコミュニケーション(2) 30 振り返り・進級に向けて 			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
成績評価の方法と基準	出席状況(30%) 授業態度(30%) 提出物(20%) 発表(20%)			
担当教員の専門分野等	<small>佐藤めぐみ:実務経験のある教員</small> 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○鈴木八重子:講座責任者 ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○飯田有美:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動にお			

2023年度 講義要綱

科目	コミュニケーションⅡ	必修 2単位 講義	講師	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目3コマ) 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようになる。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・絵本のもつ可能性及び相反する力について理解する。絵本が子ども達に与える影響について多角的な視野から見つめることにより、批評力を体得する。(認定:「絵本のもつ力」中村しんいちろう) ・心の女子が求められている場面や場所における絵本活用の可能性について理解する(認定:「心に寄り添う絵本」細江幸世) 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 コミュニケーションワーク(1)・短大科目取り組み 3 コミュニケーションワーク(2)・短大科目取り組み 4 コミュニケーションワーク(3)・短大科目取り組み 5 コミュニケーションワーク(4)・短大科目取り組み 6 【認定絵本士養成講座科目】「心に寄り添う絵本」担当:細江幸世 7 コミュニケーションワーク(5)・短大科目取り組み 8 コミュニケーションワーク(6)・短大科目取り組み 9 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のもつ力」担当:なかむらしんいちろう 10 コミュニケーションワーク(7)・短大科目取り組み 11 コミュニケーションワーク(8)・短大科目取り組み 12 コミュニケーションワーク(9)・短大科目取り組み 13 コミュニケーションワーク(10)・短大科目取り組み 14 コミュニケーションワーク(11)・短大科目取り組み 15 振り返り・夏季休暇・後期の学校生活に向けて 16 オリエンテーション 17 コミュニケーションワーク(1)・短大科目取り組み 18 コミュニケーションワーク(2)・短大科目取り組み 19 コミュニケーションワーク(3)・短大科目取り組み 20 コミュニケーションワーク(4)・短大科目取り組み 21 【認定絵本士養成講座科目】「ホスピタリティに学ぶ」近藤学 22 コミュニケーションワーク(5)・短大科目取り組み 23 コミュニケーションワーク(6)・短大科目取り組み 24 コミュニケーションワーク(7)・短大科目取り組み 25 コミュニケーションワーク(8)・短大科目取り組み 26 コミュニケーションワーク(9)・短大科目取り組み 27 コミュニケーションワーク(10)・短大科目取り組み 28 コミュニケーションワーク(11)・短大科目取り組み 29 コミュニケーションワーク(12)・短大科目取り組み 30 振り返り・進級に向けて 			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
成績評価の方法と基準	出席状況(30%) 授業態度(30%) 提出物(20%) 発表(20%)			
担当教員の専門分野等	<small>鈴木八重子:実務経験のある教員</small> 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○細江幸世:絵本作家、絵本の研究者、相談機関等において絵本の読み聞かせの実験経験のある者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者な			

2022年度 講義要綱

科 目	保育と外国語	必修 2単位 講義	講 師	玉置 充佳
授業概要	保育で使う基本的な英会話は習得。 英語の絵本な読み聞かせの練習。 英語の歌の練習。			
授業目標	保育で使う英会話文を覚え、アレンジして使いこなす。 英語の歌や絵本を保育に取り入れるレベルに。 外国人の保護者とのコミュニケーションを取る。			
到達目標	日常の保育で英語を使う。 英語で歌や絵本でレッスンをする。			
授業方法	会話文をリズムカルにリピートして発音とイントネーションを身に付ける、ロールプレイで練習。英語の絵本を1冊を選びクラスで発表をする。Show and Tellのプレゼン。			
授業計画	1 オリエンテーション 1月のイベント/my 絵本 2 2月のイベント/保育で使う英語/励まし言葉/絵本&歌 3 3月のイベント/保育で使う英語/励まし言葉/絵本&歌 (レポート1) 4 4月5月のイベント/保育で使う英語/励まし言葉/絵本&歌 (レポート2) 5 オンライン 6月7月のイベント/復習/短大試験勉強 6 産学連携 7 8月9月のイベント/保育で使う英語/自己紹介1/絵本&歌 8 10月11月のイベント/保育で使う英語/自己紹介2/絵本&歌 9 12月のイベント/保育で使う英語/自己紹介3/絵本&歌 10 オンライン 個別オーラルテスト 11 オンライン 個別オーラルテスト 12 産学連携 13 Show and Tell発表 14 中国語 15 韓国語			
必須テキスト	English for Use 2022			
参考文献	授業で使われるプリント			
成績評価の方法と基準	試験(30%)+絵本の読み聞かせ(30%)+Show&Tell(30%)+授業の取り組み(10%) =合計100%			
担当教員の専門分野等	長年にわたって児童から中学生に英語でのプレゼンテーション、作文、英検を指導。			

2022年度 講義要綱

科 目	体育講義	必修 1単位 講義	講 師	菊池 一英
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。			
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。			
到達目標	1. 実際の保育現場を想定して、指導内容からカリキュラム編成ができる。 2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、実技種目で身体を動かすことができる。			
授業方法	講義形式、グループワークトーキング(GW)、DVD視聴、実技体験			
授業計画	1 オリエンテーションと領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？ 2 運動遊具を使う遊び(マット)※実技 3 幼児体育の意義と社会的背景とは？ 4 運動遊具を使う遊び(巧技台)※実技 5 健康観の変遷 6 産学連携 7 リズムダンス遊び※実技 8 体育、幼児体育の歴史的変遷 9 体育遊びへの導入と展開(鬼遊び)※実技野外指導 10 幼児期の身体発達と運動能力の特徴 11 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？ 12 産学連携 13 保育現場での体育的活動の実際ー自由と設定保育ー<DVD視聴> 14 健康とは何かを問い直す<DVD視聴> 15 発育・発達・成長とは何かを問い直す<DVD視聴>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み姿勢・GW討論への貢献度(30%)、レポート提出(30%) 出席率(40%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			

2022年度 講義要綱

科 目	体育実技	必修 1単位 講義	講 師	菊池 一英
授業概要	保育現場での体育(幼児体育)実技指導の導入ー展開ーまとめの方法とスキルを身に付けます。また、同時に遊具の安全管理についても学びます。			
授業目標	様々なバリエーションの実技を実際に行ってみて、保育現場で応用できる、実践力を習得する。			
到達目標	保育場を想定して、実技指導内容をプレゼンテーションができるようになる。 また、指導内容のねらい、留意点を踏まえ、保育過程を組み立てることができる。			
授業方法	実際の体育(幼児体育)実技、運動遊びを集団で経験する。また、DVD視聴で様々な保育現場での取り組みを体験する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、体育遊びへの導入ー展開(ふれあい遊び) 2 サーキット遊び運動遊びへの実際と方法<DVD視聴> 3 体育遊びへの導入ー展開と方法(まねっこ遊び) 4 野外での運動遊びの実際と方法(ロープワーク遊び) 5 ファンタジー遊びの実際と方法<DVD視聴> 6 産学連携 7 体育遊びへの導入ー展開と方法(ゲーム野外遊び) 8 体育遊びへの導入ー展開と方法(ジャンケン遊び) 9 体育遊びへの導入ー展開と方法(手遊び) 10 幼児体育を年間を通して展開する<ねらいとその意味> 11 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは？<DVD視聴> 12 産学連携 13 体育遊びへの導入ー展開と方法 造形くきのこ>とのコラボレーション 14 体育遊びへの導入ー展開と方法(ダンス遊び) 15 保育現場の運動会の実際<DVD視聴> 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
成績評価の方法と基準	体育実技への取り組みの貢献度(30%)、レポートの提出(30%)、出席率(40%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			

2022年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作	必修 1単位 講義	講 師	南部 英子
授業概要	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作を学習する。			
授業目標	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。			
到達目標	情報処理技術についての基本知識を自分の言葉でまとめ、理解する。 PCで文書作成・表計算・プレゼンテーションの基本操作を体験する。			
授業方法	テキストを中心に、対話的に情報処理の基本知識を整理し、日常生活に活用できる知恵として表現する練習を行う。Windowsパソコン使用し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作を実習することで、ICT機器についての理解を深める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・情報化社会とコンピュータの発展・Windowsの基本操作 2 ハードウェア・ソフトウェア 3 情報ネットワーク 4 文書作成の基本①(書式設定) 5 インターネット 6 産学連携 7 文書作成の基本②(図形・表) 8 情報システムの課題 9 文書作成の基本③(ページ設定)・レポート課題再確認 10 表計算の基本①(書式設定) 11 情報リテラシーレポート作成・作成上の注意点など質疑応答 12 産学連携 13 表計算の基本②(計算式・関数) 14 表計算の基本③(グラフ機能) 15 プレゼンテーションの概要(PowerPoint基本) 			
必須テキスト	『情報リテラシーと処理技術 第3版』三木紘武著 豊岡短期大学			
参考文献	授業内で適宜紹介			
成績評価の方法と基準	授業内の成果物・提出物(70%)+レポート課題(30%)=合計(100%) レポート作成進捗等により各回の内容を入れ替える可能性あり。 PC操作実習は対面授業時に実施予定。			
担当教員の専門分野等	博士(人間科学)。比較行動論。大学非常勤講師(情報基礎科目)。 民間PCスクール、企業新人PC研修、再就職PC研修、教育現場でのICT機器の操作活用支援を経験。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育原理	必修 2単位 講義	講 師	岸 久美子
授業概要	テキストを中心に、保育に関する法令や制度について学ぶ。 また、日本及び海外における保育の歴史について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義について理解する。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3. 保育の内容と方法の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について考察する。 			
到達目標	保育に関する法令と諸制度について理解する。 また、保育の思想や歴史の変遷について、基本的な内容を理解する。			
授業方法	テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観 2 保育に関する諸法令などからみる保育の原理 3 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領にみる保育の原理 4 養護と教育の一体化について 5 (オンライン) 1～4回目の振り返り及びまとめ 6 産学連携 7 保育実践の基礎構造について 8 (オンライン) 多様な保育内容とその方法、子育て支援について 9 海外における保育の歴史と思想 10 日本における保育の歴史と思想 11 (オンライン) 7～10回目の振り返り及びまとめ 12 産学連携 13 保育者の在り方について 14 これからの保育に向けて 15 科目まとめ 			
必須テキスト	改訂版Workで学ぶ保育原理(わかば社)			
参考文献	保育所保育指針解説・平成30年3月(プレーベル館) その他、授業内で随時紹介する。			
成績評価の方法と基準	出席(20%)+授業態度、提出物など(30%)+学期末試験(50%)=合計100%			
担当教員の専門分野等	保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。現在、大学院博士後期課程において保育学を専攻。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本学校音楽教育実践学会他に所属。			

2022年度 講義要綱

科 目	教育原理	必修 2単位 講義	講 師	小澤 由理
授業概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が生まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教育の基本的な概念や教育の歴史や教育思想を学び、子どもの発達と教育との関係について理解を深める。 2) 今日の家庭、地域、社会の観点から教育について理解を深め、現代の教育の諸課題の解決策について自分なりの考え方をもち。 			
授業方法	テキストを基本としながら、講義スライドによる解説と要点について説明を行う。リアクション・ペーパーを通じて学生の理解や考察する力を育む。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育、教育原理の意義・目的・特性と子ども家庭福祉等との関連性 2 諸外国の教育思想①ソクラテス・ヘルソー・ペスタロッチの思想・実践 3 諸外国の教育思想②フレーベルからデューイの思想と実践 4 日本の教育思想 5 子どもの発達と教育 6 産学連携 7 子どもの権利と制度みる保育所、幼稚園、認定こども園 8 環境を通して行う教育 9 諸外国の教育の歴史 10 日本における教育の歴史の変遷 11 学校制度と義務教育 12 産学連携 13 教育における今日的課題①学習指導要領の改訂と幼児教育 14 教育における今日的課題②学校外との連携、危機・安全管理 15 期末試験 			
必須テキスト	豊岡短期大学『教育原理』2018年改訂版			
参考文献	適宜、講義内で示す。			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(20%)＋リアクション・ペーパー(30%)＋期末試験(50%)＝合計(100%) 意欲的、積極的な授業への態度や取り組みを評価する。			
担当教員の専門分野等	西洋教育史・近代日本女子高等教育史を研究。Keiko Sasaki, Yuri Uchiyama, Sayaka Nakagomi(2020). 'Study abroad and the Transnational experience of Japanese women from 1860s-1920s:'.Espacio, Tiempo y Eudcation Vol.7 No.2, pp5-28.			

2022年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉	必修 2単位 講義	講 師	荒田 直輝
授業概要	本授業では、①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深め、子育て支援のあり方について幅広い視点を身につけること、②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと、③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや家庭、家族についての幅広い視点を身につける。 ・「子どもの最善の利益」「ウェルビーイング」について理解を深める。 			
到達目標	子ども家庭福祉における基礎的な知識を身につけること及び興味・関心を持つことを目標とする。			
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 「子どもの権利」とは 3 子ども家庭福祉の歴史的展開 4 現代社会における「子どもと生活」 5 子育てをめぐる問題 6 産学連携 7 子ども家庭福祉と保育サービス 8 児童虐待とは 9 地域における子ども・子育て支援 10 子どもの遊びと福祉①(児童館とは) 11 子どもの遊びと福祉②(学童保育とは) 12 産学連携 13 子どもの「居場所」と「福祉」 14 子どもの権利と社会参加・参画の支援 15 まとめ 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	出席・授業へ取り組む姿勢・小レポートなどによる総合評価			
担当教員の専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。			

2022年度 講義要綱

科 目	社会福祉	必修 2単位 講義	講 師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新の動向を押さえながら、現場の実践に関連づけて学習する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。 2. 相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。 			
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する統計資料やプリント、映像教材なども活用していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史の変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉の実施機関 6 産学連携 7 社会福祉の専門職 8 相談保障及び関連制度の概要 9 相談援助の理論 10 相談援助の意義と機能 11 相談援助の対象と過程 12 産学連携 13 相談援助の方法と技術 14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 15 試験 			
必須テキスト	『九訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい			
参考文献	『社会福祉小六法2022』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(30%) + 提出課題(20%) + 定期試験(50%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅支援の現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。			

2022年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I	必修 2単位 講義	講 師	北川 裕子
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。 子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 			
到達目標	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 保育士として必要な人権意識がもつことができる。			
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護とは？(理念と概念) 2 社会的養護の歴史 3 子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割 4 児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護 5 施設内虐待の防止 6 産学連携 7 児童虐待 8 社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職 9 養護の基本原則 10 家庭養護 11 施設養護の実際(支援内容) 12 産学連携 13 施設養護とソーシャルワーク 14 運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など) 15 社会的養護と地域福祉、今後の展望 			
必須テキスト	図解で学ぶ保育 「社会的養護 I」 原田旬哉他編著 萌文書林 「ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック」 中央法規			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
成績評価の方法と基準	授業への取り組み(15%)+提出物(75%)=合計100% 積極的な取り組みに期待します。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育の心理学	必修 2単位 講義	講 師	井上 恵理
授業概要	保育現場で子ども理解に必要な発達心理学の基礎知識を学習する。人間の運動、知覚・認知、言語、情緒、人間関係など、発達メカニズム理解したうえで、子供の成長を促す保育者の関わりについて、学生自身の考察を深める時間とする。本科目はレポート提出が単位取得の必須条件である。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践に関する発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を促せる視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験・環境の意義を理解する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの各領域(運動、知覚・認知、言語、情緒、人間関係)の発達のメカニズムが説明できる。 ・子どもの健やかな発達を促すための保育の留意点を理解する。 			
授業方法	主に講義形式で授業を進める。レポート作成などの個人作業を通じて、子どもの発達と保育者の役割についてさらなる理解を目指す。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達を促す要因 遺伝と環境 2 学習理論 3 動機付け 4 学習理論の保育への応用 5 まとめ 6 産学連携 7 心をとらえる枠組み(1) 認知の発達 8 身体・脳の発達 9 言葉の発達 10 心をとらえる枠組み(2) 関係性の発達 11 情緒の発達 12 産学連携 13 遊びの発達 14 発達障害 15 まとめ 			
必須テキスト	『教育心理学』上長然・武田英樹 著、学校法人弘徳学園			
参考文献	『図解 史上最強 よくわかる 発達心理学』林洋一 監修、ナツメ社			
成績評価の方法と基準	提出物(50%) + 出席状況(25%) + 授業態度(25%) = 合計(100%) 授業に出席し、講義の要点はメモする。提出物は期限を守って提出すること。本科目はレポート提出が単位取得の必須条件であるので、気を付けること。			
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助	必修 1単位 講義	講 師	東郷 結香
授業概要	本科目では、子どもの内面を理解するために大事にしたいポイントや考え方を学習する。社会的養護や障害児者支援の現場等を例に、子どもの健やかな成長のために具体的にどのような支援が存在するか理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護が必要な子ども、障害のある子どもをとりまく社会情勢や課題を説明できる。 ・子どもの視点から子どもが見ている世界を想像し、関わり方を考察できる。 			
授業方法	講義と並行して、事例検討、グループワーク、視覚教材の視聴など、演習的学習を通して、保育者として子どもの状態や気持ちを想像しながら関わる力を養う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション「子ども理解」とは何かを知る 2 子どもと関わる保育士の心構え 3 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども1) 4 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども2) 5 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども3) 6 産学連携 7 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども4) 8 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども5) 9 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども6) 10 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども1) 11 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども2) 12 産学連携 13 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども3) 14 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども4) 15 試験 			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2022』全国保育士養成協議会(監修)、西郷泰之・宮島清(編著)、中央法規			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
成績評価の方法と基準	出席状況(25%) + 提出物・授業態度(25%) + 試験(50%) = 合計(100%) 授業に出席し、授業中に伝える大事なポイントを記録し、提出物の期限を守りましょう。			
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。児童養護施設や、障害児療育、カウンセリングなど様々な支援現場に入ってきました。			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもの保健	必修 2単位 講義	講 師	尾近 千鶴
授業概要	1. 子どもの発達・成長の特性と、心と身体の健康を維持し、増進する働きかけについて学ぶ。 2. 先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに健やかに育ち、自立した生活が送れるように、周囲の大人や社会の適切な対応について理解を深める。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標	1. 総合的に保育することを理解し、子どもの発達を踏まえた乳幼児の保健の内容について、具体的に説明できる。 2. 具体的な保育における保健場面を想定し、環境の構成、保育士の配慮事項を含む、保健的な対応を組み立てることができる。			
授業方法	対面授業と遠隔授業。Teamsの機能を活かした資料の配布と課題提出の推進を図る。自分の考えを発表する機会を設定する。様々な形式で演習問題に取り組み、知識の定着と臨床で活かせる知恵を身につける。			
授業計画	1 ガイダンス 授業の進め方 子どもの保健とは 2 健康の概念とは 健康指標とは 3 現代社会における子供の健康に関する課題 出生・死亡 4 子どもの疾病の予防と適切な対応 免疫機能 5 子どもの疾病の予防と適切な対応 感染症 6 産学連携 7 子どもの身体発育と運動機能の発達 標準と評価の仕方 8 子どもの生理機能の発達 9 子どもの心身の健康状態とその把握 体調不良時の対応 10 アレルギー疾患の特徴と適切な対応 11 新生児の病気、先天性疾患の特徴と対応 12 産学連携 13 慢性疾患の特徴と適切な対応 14 地域における保健活動 15 子どもの健康診断 保護者・関連機関との連携※内容、回は授業の進行等により変更することがあります。			
必須テキスト	「授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健 テキスト」小林美由紀編著 診断と治療社			
参考文献	授業中に紹介します。			
成績評価の方法と基準	小テスト2回(40%)＋課題レポート2回(40%)＋日常点・授業への取り組み(20%) ＝合計(100%) 意欲的、積極的な取り組みを評価します。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。国内外での教育機関などでの勤務。子ども学分野を研究。文学博士。			

2022年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養	必修 2単位 講義	講 師	島村 憲子
授業概要	健康な生活の基本として食生活の意義・栄養について学ぶ。 発育期の子どもに対する栄養の知識を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 			
到達目標	食べることは体への栄養と心への栄養となることを理解し、子どもが安心していられる場をつくることの必要を理解する。			
授業方法	教科書や参考文献のプリントでの講義。 課題に対してのグループ討議をする。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの心身の健康と食生活について 2 子どもの食生活の現状と課題 3 栄養素の基礎知識 糖質の代謝と栄養学的意義 4 たんぱく質の代謝と栄養学的意義 5 脂質の代謝と栄養学的意義 6 産学連携 7 ビタミン、ミネラルの代謝と栄養学的意義 日本人の食事摂取基準、食品群について 8 子どもの発育、発達と栄養について 乳汁期の栄養と食生活 9 離乳期の栄養と食生活 10 幼児期の栄養と食生活 11 幼児期の食生活上の問題 12 産学連携 13 施設における食生活、特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活 14 食育の基本と内容 保育所における食育推進の計画、実施、評価 15 まとめ 試験 			
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院			
参考文献	その時々参考になるものを紹介			
成績評価の方法と基準	出席、レポート、試験による総合評価			
担当教員の専門分野等	10年間、大学の小児科医のもとで乳幼児栄養に関する研究。 その後、乳幼児・学童・成人・老人を対象にした栄養相談。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容総論	必修 1単位 講義	講 師	岸 久美子
授業概要	<p>幼児教育における指導の方法や具体的な保育の過程について学ぶ。 また、保育現場の事例を通して、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基礎を学ぶ。</p>			
授業目標	<p>1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。</p>			
到達目標	<p>幼児の興味や関心、発達などに応じた具体的な指導について理解する。 保育所保育指針等における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。</p>			
授業方法	<p>テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。</p>			
授業計画	<p>1 ガイダンス 五領域、育みたい資質・能力の三つの柱、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) 2 保育内容の歴史の変遷 3 養護と教育の一体的展開 4 園行事の在り方 5 (オンライン)1～4回目までの振り返り及びまとめ 6 産学連携 7 保幼小連携 8 環境を通して行なう保育 遊びによる総合的な保育 9 全体的計画の作成 10 (オンライン)指導計画の作成 11 (オンライン)7～10回目の振り返り及びまとめ 12 産学連携 13 保育の評価と記録 14 保育内容の現代的課題について 15 科目まとめ</p>			
必須テキスト	<p>保育内容総論(豊岡短期大学) 保育所保育指針解説・平成30年3月(フレーベル館) 幼稚園教育要領解説・平成30年3月(フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・平成30年3月(フレーベル館)</p>			
参考文献	<p>必要に応じて、授業内で紹介する。</p>			
成績評価の方法と基準	<p>出席(20%)+授業態度、提出物など(30%)+学期末試験(50%)=合計100%</p>			
担当教員の専門分野等	<p>保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。現在、大学院博士後期課程において保育学を専攻。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本学校音楽教育実践学会他に所属。</p>			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I	必修 1単位 講義	講 師	楠野 麻衣、国友 真知子、渡辺 容子、藤村 秀子
授業概要	保育の現場において生活と遊びの中で様々な用いられる、わらべ歌、手遊び歌、リトミックソング、季節の歌や生活の歌等、知っておきたいレパートリーを多角的に演習していく。鍵盤楽器や音楽の基礎知識を学び、感じたことや考えたことを自由に表現できる力をつける。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学び、保育士に必要な読譜力やリズム感を養う ・様々な子どもの歌を演習し、自信を持って伝えたいことをしっかり表現する。 			
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、①ピアノを中心とした個人レッスンと②歌遊びのグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。グループ分けは学生ポータルで各自で確認すること。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(① ②)に分かれて45分で入れ替わる) 2 ①ピアノ等による個人レッスン／②歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ①ピアノ等による個人レッスン／②保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布します) 4 ①ピアノ等による個人レッスン／②現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ①ピアノ等による個人レッスン／②子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 ①ピアノ等による個人レッスン／②わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ①ピアノ等による個人レッスン／③簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ①ピアノ等による個人レッスン／③リトミックを含む歌遊びの演習 11 ①ピアノ等による個人レッスン／③互いに聞き合い、アドバイスを受け、より良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ①ピアノ等による個人レッスン／③個人レッスンによるアドバイス 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (① ③共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り 			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	子どもの指導法「音楽表現」豊岡短期大学			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度(50%)＋実技試験(50%)＝合計100% 実技試験課題曲については11回目または13回目に担当講師と検討し、早めに準備する。			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	必修 1単位 講義	講 師	なかむらしんいちろう
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。そして作品製作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」をかなめとし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	1. 子どもの絵画の発達や特徴等を理解し説明できる。 2. 教材の活用や作成等、造形技術を習得し、子どもの遊びが豊かに展開するよう援助できる。			
授業方法	1.実技 2.座学（基本毎回課題提出）＊社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更 ★オンライン授業予定			
授業計画	1 前提講義：講師挨拶、授業受講のルール、花等 2 こすり出し・フロッタージュ ★G1 3 自然物を用いた制作(雨天変更) 4 デカルコマニー・はじき絵・にじみ絵 5 <講義1>絵画の発達段階について ★G1 6 産学連携 7 紙コップ(または紙皿)工作 8 丸三角四角の組み合わせ ★G1 9 スタンプ 10 引っかき絵(クレヨン・クレパス)、色 11 <講義2>幼児画の特徴 ★G1 12 産学連携 13 紙の加工、ハサミ 14 お面 15 衣装			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	受講態度・積極性50%＋目標到達度・技術習得度・課題提出数及び内容・技術習得度50%＝計100% 参加・実践形式の授業の為、授業中の意欲的な取り組み、課題作成のプロセス、創意工夫、プレゼンテーション能力、作品説明能力、期日までの提出を評価			
担当教員の専門分野等	イラストレーター、絵本作家			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	必修 1単位 講義	講 師	高木 秀文
授業概要	自由でのびやかな想像力を身近で親しみのある素材を通して形にしていく領域「造形」を子どもと一緒に楽しみながら活動していく知識と技能を身につける。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	1. 子どもの造形活動を深く理解して寄り添い、指導と同時に支援する行動が取れるようになる。 2. 季節や行事に沿った造形遊びのアイデア、引き出しを増やして幅広い造形活動ができるようになる。			
授業方法	幼児期の絵画表現を再現して造形活動への理解と興味を深める。 身近な素材を使った製作物を作り、成果を共有する。			
授業計画	<p>1 授業内容、教材、用具、評価の説明。／児童画を鑑賞して気づいた点をコメントして共有します。／貼り絵の製作課題の準備として身の回りの用紙集めの説明。</p> <p>2 なぐり描き期の説明と作例の共有をします。／関連演習一背面向きで顔を描く。</p> <p>3 象徴期の説明と作例の共有をします。／関連演習一身の回りの顔さがし。</p> <p>4 図式期の説明と作例の共有をします。／関連演習一絵描き歌を考える。</p> <p>5 身の回りで集めた用紙、色紙を用いて貼り絵のお弁当を作ります。</p> <p>6 各自学生が保育現場等を訪問して学びます。</p> <p>7 貼り絵のお弁当を入れるリュックサックを色画用紙で製作します。</p> <p>8 粘土玉作り、ペットボトルへ貼り付け、色粘土作り。</p> <p>9 6月にまつわる風物や行事から題材を取った絵とお話作り。</p> <p>10 紙粘土1で作った粘土玉で頭足人を製作、他製作物の共有します。</p> <p>11 折り方と切り方を変えながら各種花びらを製作します。</p> <p>12 各自学生が保育現場等を訪問して学びます。</p> <p>13 すり合わせ版画の製作と見立てた結果を共有します。</p> <p>14 キッチンペーパーを使った揉み紙と紙染めをします。</p> <p>15 油性クレヨンと水彩絵具ではじき効果を共有します。</p>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内で適宜紹介します。			
成績評価の方法と基準	製作課題への積極的な取り組み(30%)+特定課題(事前告知)の仕上がり(20%)+見直しテスト課題(50%)=合計(100%) 意欲的な取り組みを評価します。			
担当教員の専門分野等	絵画(日本画)制作。文化財修復技師。幼稚園の課外造形授業、美術研究所の児童画教室の勤務歴あり。			

2022年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I	必修 2単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義・目的と役割を学び、乳児保育の現状と課題を知る。 ・3歳未満児の発育・発達をふまえた保育を学ぶ。 			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的背景及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多岐にわたる「乳児保育」の内容について知りアクションペーパーにまとめることができる 2. 「乳児保育」について必要な事は自ら調べることができる。 			
授業方法	授業で学んだ範囲を自ら調べたり、感じたことをアクションペーパーへ記入してまとめる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物について等) 2 乳児保育はなぜ必要か 3 乳児保育の成り立ち 4 保育所保育指針から学ぶ 5 人生の基礎としての乳児期 6 産学連携 7 小テスト(第1回～第5回までの授業を振り返る) 8 乳児のこころの発達 9 乳児のことばの発達 10 乳児のからだ 11 乳児保育の連携 12 産学連携 13 保育所の1日の流れ 14 保護者との連携 15 まとめテスト(第8回～第14回までの授業を振り返る) 			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院			
参考文献	授業中に適宜紹介			
成績評価の方法と基準	授業参加状況(50%)+アクションペーパー(25%)+テスト(25%)=合計(100%)			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」			

2022年度 講義要綱

科目	子どもの健康と安全	必修 1単位 講義	講師	尾近 千鶴
授業概要	1. 子どもの保健で学んだ子どもの発達・成長の特性と、心と身体の健康を維持し、増進する働きかけについて、その具体例と方法を学ぶ。 2. 子どもの生命維持に必要な知識、安全を守る上で必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの健康と安全を守る周囲の大人や社会の適切な対応について理解を深める。			
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。			
到達目標	1. 子どもの保健で学んだ総合的に保育することを踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 2. 保育における健康と安全に関する場面を想定し、環境の構成、保育士の配慮事項を含む、事故予防の観点、安全面への配慮といった保健的な対応を組み立てることができる。			
授業方法	対面授業と遠隔授業。Teamsの機能を活かした資料の配布と課題提出の推進を図る。 自分の考えを発表する機会を設定する。 様々な形式で演習問題に取り組み、知識の定着と臨床で活かせる知恵を身につける。			
授業計画	1 ・オリエンテーション 授業の概要、進め方、評価について・保健的観点を踏まえた保育環境および援助について知る 2 子どもの保健に関する個別対応、集団における対応 3 保育における施設管理 4 子どもの事故の特徴と事故防止、安全対策 5 危機管理と災害 6 産学連携 7 体調不良時、傷害時の対応と応急処置① 8 体調不良時、傷害時の対応と応急処置② 9 感染症の症状と対応／集団発生の予防 10 保育における保健的対応／食事、排泄、睡眠、外出、保育行事など 11 個別的な配慮を要する子どもへの対応① 12 産学連携 13 個別的な配慮を要する子どもへの対応② 14 障害をもつ子どもへの対応 15 保健計画と評価／職員間、関係機関との連携			
必須テキスト	「授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健 テキスト」小林美由紀編著 診断と治療社			
参考文献				
成績評価の方法と基準	小テスト2回(40%)＋課題レポート2回(40%)＋日常点・授業への取り組み(20%) ＝合計(100%) 意欲的、積極的な取り組みを評価します。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。国内外での教育機関などでの勤務。子ども学分野を研究。文学博士。			

2024年度 講義要綱

科 目	保育実習 I - 2 (施設)	必修 2単位 外部実習	講 師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 児童福祉施設、障害者支援施設の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や、子ども・利用者との関わりを通して対象者への理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、各現場の支援について総合的に理解する。 4. 現場における支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する			
到達目標	1. 多様な福祉施設の役割と機能、支援者の業務内容、職業倫理について説明できる 2. 支援計画に基づいた観察、理解、関わりを深め、自ら考察して記録にできる			
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
成績評価の方法と基準	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価			
担当教員の専門分野等				

2022年度 講義要綱

科 目	子どもと保育	選択必修 4単位 講義	講 師	鈴木 八重子
授業概要	本講義では、保育者を目指すにあたりどのような知識や技術が求められるのか、保育者としての職業意識を養い、高めることを目的とする。 保育現場での活動に伴う事前学習および振り返りを通して、保育全体への関心を広めていく。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育、および保育内容について関心を深める。 ・保育現場活動に興味を持って取り組む。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育、および保育内容について関心を深め、経験したことを表現することができる。 ・保育現場活動に興味を持って取り組み、自分の課題を意識することができる。 			
授業方法	講義・演習(グループワーク)および実技を中心として授業を展開し、保育現場での活動(実践)、それに向けた自己学習および現場活動後の振り返り、ゲストスピーカーによる講話などを行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 保育の現場活動に向けて(1) 保育園の環境と一日の流れを理解する 3 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義①」 4 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義②」 5 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義③」 6 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義④」 7 スケッチブックシアターとは 保育教材の種類と特色を知る 8 スケッチブックシアター制作(1) 構成を考える、下書きをする 9 保育現場での活動に向けて(5) 準備物確認とその意味を考える 10 スケッチブックシアター制作(2) 色を塗る 11 産学連携 保育所見学①保育園の環境 12 産学連携 保育所見学②子どもを観察する 13 保育所見学振り返り 保育園見学で気づいたこと、感じたことを表現する イラストと文章 14 スケッチブックシアター制作(3) 色を塗る 15 エプロン名札デザインを考える 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	出席状況(30%) + 課題提出(30%) + 授業への参加態度(20%) + 実技・ポスター発表(20%) = 合計(100%) 手遊び、折り紙、絵本の読み聞かせなど実技指導と発表を行う。そこでの態度を授業への参加態度と反映する。			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			

2023年度 講義要綱

科目	合唱と合奏 I	選択必修 2単位 講義	講師	
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら考えながら、より良い指導法のテクニックを培っていく。コードネームの基礎をマスターする。また、豊岡短大の試験対策も④⑤の授業の中でそれぞれ行っていく。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスンでは保育実習Ⅱに向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲仕上げる。 ・季節や生活・行事等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に着ける。 			
授業方法	1年次と同じく、クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、④ピアノ等の個人レッスンと⑤合唱等のグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(④⑤に分かれて45分で入れ替わる) 2 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤合唱等のグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤1年次にマスターした子どもの歌のレパートリーの確認。 4 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤コード伴奏等の基礎知識(五線紙は配布します。) 5 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤現場で役立つ声の出し方(呼吸法と発声法) 6 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤童謡・唱歌等の子どもの歌教材研究 7 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤豊岡短大ソルフェージュの課題演習(スクーリングに向けて) 8 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤2声・3声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤リトミックを含む歌遊びの指導法研究 11 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤リズム楽器を楽しむ 12 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤弾き歌いの指導研究 13 ④ピアノ等による個人レッスン／⑤個人レッスンによるアドバイス 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(④⑤共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 子どもの指導法『音楽表現』豊岡短大 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドホン”をお持ちください			
参考文献	日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度(50%)＋実技試験(50%)＝合計100% 実技試験課題については1か月前には担当講師と個別に検討を始め、ピアノ曲、弾き歌い各1曲(または弾き歌い2曲)を準備すること。			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			

2022年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ	選択必修 1単位 講義	講 師	大須賀 かおり、国友 真知子、楠野 麻衣、渡辺 容子
授業概要	保育の現場において生活と遊びの中で様々な用いられる、わらべ歌、手遊び歌、リトミックソング、季節の歌や生活の歌等、知っておきたいレパートリーを多角的に演習していく。また、コードネームによる簡易伴奏の基礎を学び、現場での指導に活用できる力を養う。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスンではハ長調の主要三和音を使った弾き歌いのレパートリーを2曲以上作る。 ・様々な子どもの歌の音程、リズム、ねらい等を学び、伝えたいことをしっかり表現する。 			
授業方法	前期と同様にクラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、④ピアノ個人レッスンと⑤歌遊びのグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A/Bに分かれて45分で入れ替わる)Aの個人レッスンでは次週の各人の課題を担当講師と打ち合わせ、次週に向けての個人練習を続ける。</p> <p>2 ④ピアノ等による個人レッスン/⑤歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 ④ピアノ等による個人レッスン/⑥保育士の音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布します)</p> <p>4 ④ピアノ等による個人レッスン/⑥現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法の演習)</p> <p>5 ④ピアノ等による個人レッスン/⑥手遊び歌やわらべ歌の演習</p> <p>6 産学連携</p> <p>7 ④ピアノ等による個人レッスン/⑥童謡・唱歌などの子どもの歌の演習</p> <p>8 ④ピアノ等による個人レッスン/⑥和声の基礎とコード伴奏の演習</p> <p>9 ④ピアノ等による個人レッスン/⑥簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 ④ピアノ等による個人レッスン/⑥リトミックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 ④ピアノ等による個人レッスン/⑥互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 産学連携</p> <p>13 ④ピアノ等による個人レッスン/⑥個人レッスンによるアドバイス</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(④⑤共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り</p>			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドフォン”をお持ちください			
参考文献	子どもの指導法「音楽表現」豊岡短期大学 日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」			
成績評価の方法と基準	出席状況・受講態度(50%)＋実技試験(50%)＝合計100% 実技試験課題については1か月前には担当講師と個別に検討を始めピアノ曲、弾き歌い各1曲を準備する。			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			

2024年度 講義要綱

科 目	保育実習Ⅲ	選択必修 2単位 外部実習	講 師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する			
到達目標	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能、利用者ニーズと支援の実際を理解する 2. 個人の支援計画を理解し、多様な専門職との協働、業務内容、職業倫理を理解する 3. 現場における学びを記録、考察し、自己課題を明確化できる			
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
成績評価の方法と基準	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価			
担当教員の専門分野等				

2022年度 講義要綱

科目	保育の現場活動	選択 4単位 講義	講師	鈴木 八重子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を目指すにあたりどのような知識や技術が求められるのかを知り、保育者としての職業意識を養い、高めることを目的とする。 ・保育現場での活動に伴う事前学習および振り返りを通して、保育全体への関心を広めていく。 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの保育現場活動を通じて自分の課題と目標を明らかにする。 ・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」飯田有美) ・子ども達の興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」)細江幸世 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の本質、目的、意義を知り、保育者の意図を意識できるようになる。 ・認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。(該当科目3コマ) 			
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習(グループワーク)および実技を中心とした授業を展開し、保育現場での活動(実践)、それに向けた自己学習および現場活動後の振り返り、成果発表会を行う。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 前期の現場活動を振り返る 2 保育園の環境構成を知る 3 保育現場での活動に向けて(1) 環境構成図の記入の仕方と意味 4 実習開拓 保育所の種類と特色を知り、自己開拓をする。 5 【認定絵本土養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世 6 保育現場での活動に向けて(2) 活動を時系列でとらえる 7 【認定絵本土養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春 8 保育者の援助の種類と方法 9 実習開拓 幼稚園の種類、特色を知り、開拓をする 10 スケッチブックシアター(1)保育教材の検索の仕方を学び、制作する 11 産学連携 保育所見学① 園内の環境を観察する 12 産学連携 保育所見学② 13 保育所見学振り返り(1) 保育園内で気づいたこと、感じたことを表現する 14 保育園の1年を知る(1) 4月から9月 15 【認定絵本土養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:飯田有美 16 保育園の1年を知る(2) 10月から3月 17 スケッチブックシアター(2)制作 18 実習生に求められるマナー 19 保育現場活動保育参加 子どもを観察し関わる(1) 20 保育現場活動保育参加 子どもを観察し関わる(2) 21 保育現場活動振り返り 子どもを観察して気づいたことをまとめる 22 保育現場活動準備 23 産学連携:保育現場活動 保育参加 保育士と子どもの関わりを観察する(1) 24 産学連携:保育現場活動 保育参加 保育士と子どもの関わりを観察する(2) 25 保育参加振り返り 保育士と子どもの関わりから気づいたことをまとめる 26 実習日誌の記入の仕方 27 保育の現場活動全体を通しての振り返り 発表資料制作(1) 28 保育の現場活動全体を通しての振り返り 発表資料制作(2) 29 保育現場活動 発表(1) 30 まとめ 			
必須テキスト	【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト			
参考文献	特に指定なし			
成績評価の方法と基準	出席状況(30%) + 課題提出(30%) + 授業への参加態度(20%) + 実技・ポスター発表(20%) = 合計(100%)			
担当教員の専門分野等	<p>実務経験のある教員による授業。幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</p> <p>○近藤千春:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上持つ者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者。○飯田有美:図書館や学校等においてブックトーク及びビブリオトークの実践経験を持つ者。</p>			

2022年度 講義要綱

科 目	教育課程総論	選択 2単位 講義	講 師	小澤 由理
授業概要	<p>本科目は、幼稚園(認定こども園)や保育所の教育(保育)がどのような道筋をたどって進められるかをその意義や役割を理解し、全体的な計画を示す教育保育課程についてと指導計画について理解をする。次に日本と諸外国の幼児教育(保育)カリキュラムの思想と歴史を学ぶ。最後に、保育におけるカリキュラム評価とその方法や教育保育課程編成の今日的課題を検討する。</p>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程・保育課程の意義や役割について理解する。 ・教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、意義や方法を具体的に理解する。 ・幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷を学ぶ。 ・教育課程・保育課程を編成するにあたっての手順、留意事項および評価・改善の方法について説明できる。 ・幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷を理解できる。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領の改訂の変遷と内容の変化を理解し、教育課程の全体像を掴む。 ・教育課程の編成を理解するとともに、今日的な教育課程の課題について理解をする。 			
授業方法	<p>教科書を使用した講義形式が主に、パワーポイントを用いたプリントの配布および、ワード機能の活用やグループフォームを通じた課題提出などがある。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 教育課程・保育課程とは 2 教育課程・保育課程の意義、レポートのルール 3 教育課程・保育課程編成の留意点 4 教育課程・保育課程の評価と改善 5 【オンライン】レポート作成① 6 産学連携 7 幼稚園教育要領と保育所保育指針の概要、幼稚園教育要領の変遷 8 レポート返却、解説、修正 9 保育所保育指針の変遷 10 指導計画の種類、意義、計画の際の留意点 11 【オンライン】レポート作成② 12 産学連携 13 テスト対策 14 テスト 15 まとめ 			
必須テキスト	<p>金岩俊明、田中亨胤、和田真由美(2020)『教育課程論』豊岡短期大学通信教育部 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>			
参考文献	<p>適宜、提示する。</p>			
成績評価の方法と基準	<p>出席(30%)＋レポート2本(50%)＋テスト(20%)＝合計(100%) 授業への意欲的、積極的な取り組みを期待し、評価する。</p>			
担当教員の専門分野等	<p>西洋および日本の女性教育史についての研究。保育実習指導に関する研究。</p>			

2022年度 講義要綱

科 目	保育に生かすやさしい手芸	選 択 単 位	1単位	講 師	酒井 暢子、高田 ちとせ
授業概要	<p>単手やフエルトなどで簡単に仕上がる作品づくりを通して、糸針仕事の練習をする。作品を保育の現場で生かせるように、わらべうた、童謡、詩などに合わせた演目で演技方や遊び方を学ぶ。</p> <p>【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。「おはなし会」のテクニックについて理解し、体得する。(該当科目1コマ)</p>				
授業目標	<p>手縫いの基礎及び制作技術を習得する。手作りの人形を使って動かし方の基本を学び、子どもとのコミュニケーションの道具として活用できるようにする。</p> <p>「おはなし会」のテクニックについて理解し、体得する。(認定:「おはなし会の手法②」)</p>				
到達目標	<p>7つの作品を完成させ、制作技術を習得する。 それぞれの作品の生かし方を学び、保育活動に応用できるようになる。</p>				
授業方法	<p>オリジナルの材料キットを用いて作品を制作。作品の生かし方や応用のアイデアを紹介し、実技指導を行う。</p> <p>【認定絵本士養成講座科目】では制作した作品を「おはなし会」で活用できるように、演習を行う。</p>				
授業計画	<p>1 「グラブ人形 指ぶた」制作①</p> <p>2 「グラブ人形 指ぶた」制作②、演技方練習</p> <p>3 手縫いの基礎①、「グラブ人形 指かえる」制作①</p> <p>4 「グラブ人形 指かえる」制作②、演技方練習</p> <p>5 「ハンカチ人形」制作①</p> <p>6 産学連携</p> <p>7 手縫いの基礎②、「ハンカチ人形」制作②、演技方練習</p> <p>8 「ミトン人形 くま」制作①</p> <p>9 【認定絵本士養成講座科目】おはなし会の手法②(おはなし会のテクニック)「ミトン人形 くま」制作②、「おはなし会」のテクニックの理解と演技方練習 担当:高田ちとせ</p> <p>10 演技練習・発表</p> <p>11 「ミトンくまのベスト」制作</p> <p>12 産学連携</p> <p>13 「カップ人形 さる」制作①</p> <p>14 「カップ人形 さる」制作②、演技方練習</p> <p>15 「ひまわりブローチ」制作 応用例の紹介</p>				
必須テキスト	<p>特になし 授業時に資料を配布</p> <p>【認定絵本士養成講座科目】認定絵本士養成講座テキスト</p>				
参考文献	<p>『お話し会で楽しむ手ぶくろ人形』保育と人形の会/編著 児童図書館研究会/刊</p> <p>『手ぶくろ人形の部屋』高田千鶴子/著 偕成社/刊</p>				
成績評価の方法と基準	<p>授業への取り組み・出席(45%) + 作品・発表・レポート(55%) = 合計(100%)</p> <p>【認定絵本士養成講座科目】おはなし会の手法②は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となる。</p>				
担当教員の専門分野等	<p>子どものための手作り人形など、作品の創作と演目の実践。</p> <p>【認定絵本士養成講座】高田ちとせ:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上持つ</p>				